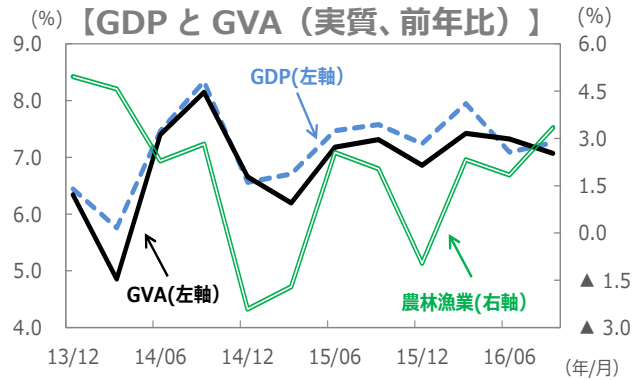


今日のトピック 最近の指標から見るインド経済（2016年12月）

高額紙幣廃止の影響は一時的、経済成長の拡大続く

ポイント1 GDP成長率は加速

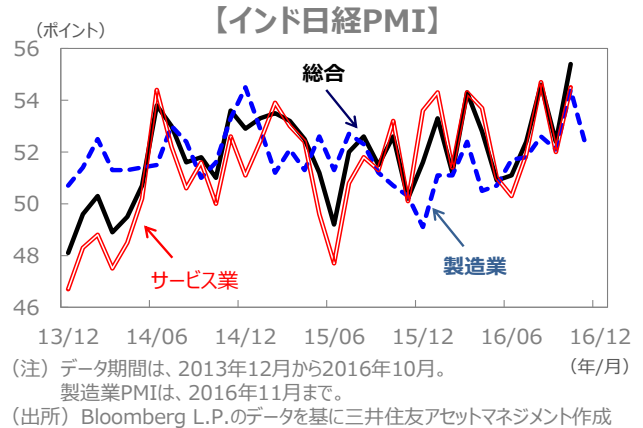
- 2016年7-9月期の実質GDP成長率は、堅調な消費により前年比+7.3%と加速しました（2016年4-6月期：同+7.1%）。
- 一方、実質GVAは、前四半期の同+7.3%から減速し、同+7.1%でした。十分なモンスーンの降雨により農林漁業の成長は加速しましたが、鉱工業が減速しました。



(注) データ期間は、2013年12月から2016年9月。
GDP = GVA + (間接税 - 補助金)。
(出所) CEICのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 製造業PMIは堅調

- 12月1日発表の2016年11月の製造業PMI（購買担当者指数）は、52.3と前月の54.4から低下しましたが、11カ月連続で拡大・縮小の境目である50を超え、堅調な水準を維持しました。
- 製造業PMIを見る限り、景気は堅調に推移することが予想されます。



(注) データ期間は、2013年12月から2016年10月。
製造業PMIは、2016年11月まで。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 高額紙幣廃止で目先消費は下振れ、但し、景気拡大基調は不変

- 11月8日に高額紙幣廃止が発表されました。交換する紙幣が不足しているため、消費に影響が出ている。紙幣不足は数カ月で解消に向かい、混乱は年度内に終息すると思われます。2017年4月の新年度以降は堅調な消費とインフレ低下基調に変化がない中、企業の投資回復などで8%の実質GDP成長率を見込みます。
- また、インド中銀によると11月10日から11月27日にかけて旧札の預金額は約8.5兆ルピー（銀行預金総額の約8%）に上りました。急増した預金は、インド国債投資へ向かい、利回りは大幅に低下（価格の上昇）しました。今後は徐々に経済活動が活発化すると見られますが、インフレが落ち着いていることから低金利が続くと予想されます。

ここもチェック! 2016年 11月17日 最近の指標から見るインド経済（2016年11月） 2016年 11月14日 高額紙幣廃止、着実に進むブラックマネー撲滅

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。